



最初の生き物は、どうやって生まれたの、何だったの

生き物は、海で生まれた

最初の生き物が、どんな物で、どうやって生まれてきたのかは、まだ、よくわかっていません。宇宙から、生き物の種のような物が、いん石などにくっついて地球に飛んできた、という学者もいます。現在、ふつうには、つぎのように考えられています。

およそ35億年前の地球は、すでに海があり、海の中には、さまざまなものがとけていました。そのころは、ひんぱんに火山の爆発があり、かみなりや、宇宙からは放射線がふりそそいでいました。これらの高熱や、かみなりの電気、放射線などが、海にとけていたものを材料にして、生き物のもとになる、アミノ酸をつくったと考えられます。

アミノ酸は、たんぱく質の材料です。この海の中で、さらに、長い長い時間をかけて、アミノ酸からたんぱく質ができ、やがて、さらに長い間、さまざまなできごとが重なって、とうとう、生き物が生まれたようです。

バクテリアのような小さな生き物

最初の生き物は、小さいアミノ酸が少しつながった、ごく簡単な体のつくりの、バクテリアのような生き物だったのでしょ。これが、長い年月と、いろいろなくう然のできごとが重なって、少しずつ変化していきました。そして、少しずつ複雑で、より高度なつくりの、さまざまな種類の生き物に分かれていったのです。

地球上のあらゆる植物も、動物も、この最初に現れた小さい生き物から、進化して、生まれてきたものなのです。（監修・今泉 忠明）

